

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語  
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。

## Circular Economy

### 持続可能な社会を実現するために私たちができること

国内でサーキュラーエコノミー（以下 CE）をテーマとした2つのカンファレンスに参加しました。持続可能な未来構築について私たちができることは何か？今号では、カンファレンスを通して得た所感をお伝えします。

#### ①Circular Design Praxis 2023 in 京都芸術繊維大学

2023年8月、京都芸術繊維大学KYOTO Design Labと RE:PUBLIC Inc. 共催で行われたシンポジウム。このシンポジウムは資源枯渇や食物危機、地域間の経済格差やその根幹にある人種差別、生物多様性の劇的な減少など、さまざまな問題について、CEの移行=Transitionをどの様にデザインしていくかを議論していくものでした。このシンポジウムに参加した、弊社代表の岡部が考察をnoteにまとめています。是非、裏面InformationのQRコードを読み取りご覧ください。

#### ②GREEN WORK HAKUBA vol.5 in 長野県白馬村

2023年9月、(株)新東通信主催で行われたプロジェクト。これは、自然豊かな白馬村で非日常なワークスタイルを体験しながら、CEを学び、実装につなげていくものでした。様々な企業によるCEの実装例やビジョンについて聞くことができましたが、印象に残っている内容として、『(株)comvey』の取り組みをご紹介します。(株)comveyは繰り返し使えるシェアバッグの運用を提供している企業です。近年のECサイトの普及は、利便性を高める一方、様々な問題を発生させてもいます。大量の梱包の廃棄、返品、配達員不足など、その問題点は多岐に渡り、シェアバッグはこれらの問題を改善していく取り組みです。使い方は簡単で、購入時にシェアバッグを選択し、自宅に届いたらポストへ返却。梱包材の資源削減になると共に、従来の梱包に比べ、開梱の手間も削減されます。また、利用者にクーポンを付与することで、リピート率を上げていくことで好循環を維持できる仕組みをつくっています。

何気なく見過ごしがちな日常にある問題点から、このよう

にビジネスに置き換え、CEを実装していく実例を目の当たりにし、CEに対しての意識が変わった瞬間でした。もう一つ、印象に残ったものは、グループごとに白馬村でのCE実装について考えるというプログラムです。参加したグループでは『廃棄を減らすフードシステム』をテーマとし、『HAKUBAデジタル冷蔵庫』を考案しました。過剰な仕入れ・材料管理、需要供給のミスマッチによる廃棄食品を削減すべく、AIを用いた白馬村全体の食材管理をしていくシステム上の冷蔵庫になります。日常でフードロスについて何かできたらという思いはあったものの、具体的なアプローチを考えたことは無く、アイデアも直ぐに浮かばない状態でのスタートでしたが、同じ質の志を持つ者が集まり、ディスカッションを重ねていくことで、より現実的なプランを模索することができ、とても貴重な体験となりました。今回の2つのカンファレンスではどちらも、様々な業界の有識者が集まり、知識とアイデアを共有しながら協力して、持続可能な未来を築く方法を考える場でした。引き続き、私たちも様々な方々と一緒にCEの社会実装にチャレンジしていきたいと思えます。



写真：コミュニケーションボード（=意見やアイデアの共有ツール）



## 害蟲展season4を終えて

8thCAL(株)では、害虫・害獣を含めたすべての生き物のいのちを考え、人と自然が共存できる『持続可能な環境』を目指し、“棲み分け”という考え方を社会実装すべく、活動しています。その一環として、虫に関する認識を改める啓蒙活動アクション、『害蟲展』を年一回開催しています。その4回目となる害蟲展season4がお陰様をもちまして先日、無事に終了しました。

害蟲展では「偶然、展示会の存在を知り来てみた！」という方が多くいらっしゃいます。その方々に印象を聞いてみると、「家で見ると怖い、気持ち悪い、だけだったが、作品を通して見ると美しい一面があるんだなと感じた」「人間と同じで良い所と悪い所の両面があることがわかった」など、害虫に対してのイメージが変わったというコメントを多く聞くことが出来ました。作品を通して虫へのイメージを変えることのできるアート力を改めて感じました。このイメージの転換は、『生物の命を守る』上でとても重要なことだと私たちは考えています。

昔、田舎育ちの父が室内にいた虫を優しく手で握って、ベランダの外へ逃がしていた光景を思い出しました。殺虫剤片手に虫に怯えている私に父が「虫の方がお前のごと怖がっているぞ！」と言ったのです。人間は自分勝手な「怖い」「汚い」というイメージで虫の命を簡単に奪っています。虫も生態系の一部であり、その命の尊さを実感した上で、人と自然が共存できる『持続可能な環境』を目指し、“棲み分け”をしていく必要があります。



写真：害蟲展season4にご協賛いただいたスポンサー様の紹介パネル

シエルグループのミッションは、人と自然が共存できる都市衛生の未来を創造することです。その実現のためには“棲み分け”という考え方が重要です。“棲み分け”を実装させる為に、私たちは予防という観点から、まちづくり視野を広げ、建物の建築段階から屋内外、様々な方面からアプローチしていくコンサルテーションを行っています。“棲み分け”を実装させることで期待される成果のひとつが、現在の過剰な殺虫剤などの薬剤使用量の削減です。このような成果を積み上げることで、環境配慮型の管理を実現することができます。

これからも害蟲展というアート活動を通して、幅広い世代にこのようなことをお伝えしていければと考えています。来年開催予定のseason5もご期待ください。

## 今月のInsect



写真/解説  
中峰 空  
8thCAL技術顧問  
真面目昆虫館館長



### クワコ

(桑子)

チョウ目カイコガ科

学名：Bombyx mandarina

クワコはカイコの原種で、クワコを家畜化した種がカイコだと考えられている。成虫はカイコと異なり飛ぶことができる。幼虫はカイコ同様クワの葉を食べて育つ。繭は小指の先ほどの大きさでカイコに比べてひと回り小さい。しかし、その小さい繭から五千年に及ぶ養蚕の歴史が始まったのである。

## Information

### ● note更新しました

代表の岡部が不定期に更新しているnote。  
想いをストレートに伝えていきます。是非ご覧ください。  
<https://note.com/okb375/n/nccb9375b167e>



### ● Pick up 展示会情報

#### ビルメンヒューマンフェア&クリーンEXPO2023

(※弊社は出展していません。)  
会期：2023年11月15日(水)～11月17日(金)  
会場：東京ビッグサイト東展示棟

#### SDGs Week EXPO

(※弊社は出展していません。)  
会期：2023年12月6日(水)～12月8日(金)  
会場：東京ビッグサイト 東ホール

### Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。  
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を  
配信中です。

